



千八百七十九年八月廿日 日本奈良 秘密

拜呈 日本大藏省ニ送ル別封々懸覽ノ上ニ閣下ニ於テ多ク有益ニ有
有之ト存候

行政官ノ人ニテ大隈君ノ如ク事務ニ才幹凡ハ他ニ見受ケ不申候

同君ニ閣下ノ事業ト相類シ且ツ閣下ノ事ニ付テハ毎度以テ計候

レ去現今日本ニ於テ我英國ノ事ハ我公使ノ精偏執ヲ政界ニ因ツテ

何事モ人氣ヲ失ヒ候故ニ不事ナル次第ニ候

台伴サレハルリキハ以前支那王在留ノ時ノ如ク候事ニ練熟シ一身

愛スヘキ人ニ候得共今ヤ大ニ忌要スヘキ者様ニ候

拙者カ政治上ノ善友也ニテハ東洋地方ニ魯國ノ威云々存頻リニ改并

政院得共案スルニ右善友也ハ日本ニテ地位見許君并許學校ニテノ

論旨ハ英國リ自國ノ仇敵ト認メ居候實事ニ即カ注意セザルモノト

有之候

此等ノ基キ弟事閣下ニ退職以來頗ル勉シク申候 (ロルト
君及ヒロルトガリスビエリ君ノ正兵ト併シ此ノ如キ高尚ノ事ハ時トシテ全ク忘却

テ所候

是迄支那日本兩國ニ閣下外交上ノ事務ハ一人ノ手ニ全ク任置居候共

一人ノ手ノ香港許証大師サレシエリアンパンセホートキニテ此ノ自巳

ノ才知限リ眞實英國ノ利益ヲ謀ルヨリモ寧ロ只在外ニ英商人也ノ代

理人ニテ居候

日本皇帝ノ内閣社公ヨリ及ニ拙者ニ此語候ニ送テラツトストリ君ノ

歐洲ニ於テセシメシナラスモルネツノ如キ遠隔ノ地ニ於テ施行セラレテ寛大ノ政

策ヲ英公使ヲラフスニテ採用セシナラス (現今ノ如ク常ニ暴壓) 我日本國ニテ英國

ニ對テ感覺ハ何等ノ相通スルハキ也云々

抑右暴壓ノ事ハ及ニテ日本ニ於テ英國ノ威ヲ強固ナラシムル能ハス却テ

魯國及ヒ米國ノ地位ヲシテ一地位 (貿易上ノ報告ニテハ魯米共ニヨリ得セシムルニ

過キサルナリ) 頓首致白

シヨン、ボルフ、ヘンネツレ

ライト、オノレーブル、ダフル子、イハ、グレストン君

閣下

解説

明治十二年八月二十四日

ジョン・ボーブ、ヘンネツシー著

明治十二年六月香港知事ヘンネツシー來朝ス、氏ハ英國議員ニシテ著名ノ政治家ナリ、來朝ノ目的ハ我が國ノ文物制度ヲ視察シ、進歩ノ真相ヲ把握シ、英國ノ外交政策ノ確立ヲ策スルニアリ、滯留三ヶ月、各府縣ヲ巡遊ス、大藏卿大隈重信、外務卿井上馨更互案内接待ノ任ニ當ル、偶々條約改正著手ノ時ニ際セシヲ以テ、兩侯大ニ諸般ノ説明ニ力ム、ヘンネツシー日本ヲ辭去スルニ際シ、此ノ書ヲ英國前首相グラドストーンニ與ヘテ、大隈ノ事業及ビ人物材幹ヲ説明シ、且ツ公使パークスノ偏執ニシテ、徒ニ暴壓ヲ事トシテ、痛ク日本國民ノ感情ヲ害シ、信賴ヲ失墜セシコトヲ述ベ、外交政策轉向ノ急務ヲ論ズ、此ノ書當時外交ノ狀況ト大隈侯等ノ苦心ノ跡ヲ見ルニ足ルベシ、

臨時帝室編修局

85 大隈家

英國書翰之寫